

TAD Letter

31



富山県美術館
アート & デザイン

林明子《ひよこさん》5-6頁原画 2013年 宮城県美術館蔵

国立美術館 コレクション・プラス ビフォーアフターポップ TADのアメリカ美術＋ ピカソー肖像画とモデル

「国立美術館 コレクション・プラス」は、国立アトリサーチセンターが募集、協力して開催する事業です。開催館の所蔵作品展（コレクション展）における、テーマ性を持った小特集展示に、そのテーマにふさわしい国立美術館の所蔵作品1点ないし数点を加える企画を全国の美術館から募って、実施されます。令和7年度は長野県立美術館、北海道立釧路芸術館と共に当館が開催館となりました。

当館では9月6日から開催される企画展「ポップ・アート 時代を変えた4人」に合わせて、展示室2では戦後アメリカ美術の多様な展開を示すコレクションを展示予定です。この展示に国立国際美術館が所蔵するバーネット・ニューマンとサイ・トゥオンブリーの作品が加わります。また、同美術館からはパブロ・ピカソが晩年に結婚したジャクリーヌ・ロックを描いた作品《肘かけ椅子に坐る裸婦》も借用し、当館が所蔵する同じくジャクリーヌをモデルに描かれた《座る女》などと合わせて展示します。国立国際美術館が所蔵する優品を、当館のコレクションと合わせて是非、お楽しみください。

バーネット・ニューマン《夜の女王I》
1951年 国立国際美術館蔵
© 2025 Barnett Newman Foundation /
ARS, New York / JASPAR, Tokyo B0912



パブロ・ピカソ《肘かけ椅子に坐る裸婦》1964年 国立国際美術館蔵
©2025 - Succession Pablo Picasso - BCF (JAPAN)

開催概要

会 期 2025年7月17日(木)－10月28日(火)
休 館 日 水曜日(8月13日は開館)、7月22日(火)
会 場 富山県美術館 2階 展示室2
主 催 富山県美術館
特別協力 国立国際美術館、国立アトリサーチセンター
観 覧 料 一般300円(240円)

※①内は20人以上の団体料金

※本展はコレクション展の料金でご覧いただけます。

企画展をご覧の方は、企画展のチケットでもご覧いただけます。

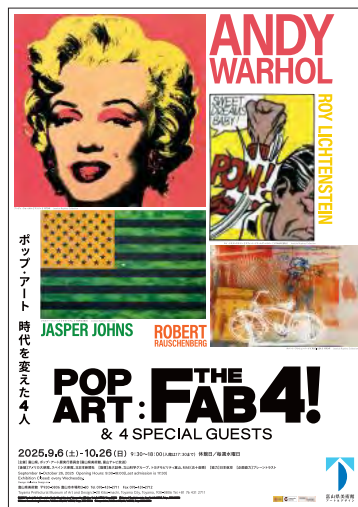
ポップ・アート 時代を変えた4人

POP ART: THE FAB4! & 4 SPECIAL GUESTS

ポップ・アートは、報道写真、商業広告、量販品のパッケージ、著名人のポートレートなど、日常生活にありふれたモチーフやイメージを美術の中に取り入れ、1960年代のアメリカのアートシーンを席巻しました。

ロイ・リキテンスタイン(1923-1997)、アンディ・ウォーホル(1928-1987)、ロバート・ラウシェンバーグ(1925-2008)、ジャスパール・ジョーンズ(1930-)はポップ・アートを牽引した、アメリカを代表する作家たちです。彼らは戦争や社会問題が巻き起こっていた激動の時代において、ポピュラー・カルチャーやロック音楽との関わりを通じて、アートと社会の姿を変えていきました。

本展はスペイン出身のコレクター、ホセリス・ルペレス氏のコレクションから約120点の版画、ポスター、服飾を展示します。ルペレス氏のコレクションを通して、本展では同じ1960年代に脚光を浴びたザ・ビートルズになぞらえて「ザ・ファビュラス・フォー(FAB 4=素晴らしき4人)」と呼ぶ、リキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジョーンズの4名の作品を中心に、時代を変えたポップ・アートの軌跡をご覧いただけます。



「ポップ・アート 時代を変えた4人」メインビジュアル

デザイン: Helvetica Design inc.

アンディ・ウォーホル《マリリン》1970 © 2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo, B0912

ジャスパール・ジョーンズ《モラトリウム》1969年(部分) © Jasper Johns / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo, 2025 B0912

ロバート・ラウシェンバーグ《ROCI USA》1990年 © Robert Rauschenberg Foundation / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo, 2025 B0912

ロイ・リキテンスタイン《スイート・ドリームズ・ベイビー》1990年 © Estate of Roy Lichtenstein, New York & JASPAR, Tokyo, 2025 B0912

開催概要

会 期 2025年9月6日(土)～10月26日(日)
開館時間 9:30～18:00(入館は17:30まで)
休 館 日 毎週水曜日
会 場 富山県美術館 2階 展示室3、4
主 催 富山県、ポップ・アート展実行委員会
(富山県美術館、富山テレビ放送)
後 援 アメリカ大使館、スペイン大使館、北日本新聞社
協 賛 島大証券、立山科学グループ、
トヨタモビリティ富山、MAE(五十音順)
協 力 日本航空
企画協力 プレントラスト
観 覧 料 一般¥1,500(1,300)、大学生¥1,000(800)、
一般前売り¥1,300、高校生以下無料 ※()内は団体料金

イベント

TADアートレクチャー

「ウォーホルとポップ・アート—20世紀アメリカを映した鏡」

宮下規久朗氏(神戸大学教授)

日時: 2025年9月23日(火・祝) 14:00～15:30

会場: 富山県美術館 3階 ホール 聴講自由・参加無料

ギャラリートーク

本展担当芸員が会場内で本展の見どころなどについてお話しします。

日時: ①9月20日(土)、②10月4日(土)、③10月18日(土)

各回14:00～14:30

開始・集合場所 富山県美術館 2階 展示室4(本展会場入口内すぐ)

参加自由 ※企画展観覧券が必要です。

※内容は予告なく変更になる場合があります。

※会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

POINT



roy lichtenstein poster originals



上:ロイ・リキテンスタイン《キスV》1990 Joseluis Ruperez Collection
© Estate of Roy Lichtenstein, New York & JASPAR, Tokyo, 2025 B0912

中:アンディ・ウォーホル《牛》1971 Joseluis Ruperez Collection

下:アンディ・ウォーホル《マリリン・モンロー、あなたのキスを愛している、永遠に、永遠に…(「ワン・セント・ライフ」より)》1964 Joseluis Ruperez Collection
© 2025 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc., / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo B0912

1960年代のアメリカの社会や文化から作品を見る

ポップ・アートは1950年代半ばのイギリスを発祥とし、その後1960年代のアメリカで最盛を迎えた動向でした。商業広告や量販品のパッケージなど日常生活の中のイメージを取り込んだその鮮烈なヴィジュアルは、同時代の音楽や映画、ファッション、グラフィック・デザインに大きな衝撃を与えました。ポピュラー・カルチャーそのものを革新していったポップ・アートとその作家たちに1960年代のアメリカの社会や文化から迫ります。

ポップ・アートの代表的な4名の作家から、ポップ・アートの真髄に迫ります。

フルカラーコミックの一コマを一枚の絵画に仕立てたりリキテンスタイン、有名人のポートレートやスूप缶を繰り返し描くことで大量生産・大量消費社会のあり様を表現したウォーホル。彼らの先駆けとなったのが、新聞や雑誌から採られた写真や広告をカラーージュしたラウシェンバーグ、そして標的や国旗といった記号や、日用品をモチーフにしたジョーンズでした。この二人により、日常生活にありふれたイメージを新たな意味に置き換え、誰もが分かる普遍的な表現を目指したポップ・アートが生まれていきます。

4 Special Guests

本展ではさらに、ロバート・インディアナ、ジェームズ・ローゼンクイスト、トム・ウェッセルマン、ジム・ダインといったポップ・アートを担ったこれらの作家を「特別ゲスト」として紹介し、ポップ・アートの広がりや作家同士のコラボレーションを見ていきます。そしてラウシェンバーグ、ウォーホル、リキテンスタイン、インディアナ、ダイン、ローゼンクイスト、ウェッセルマンたちがコラボレーションした唯一の詩画集《ワン・セント・ライフ》から、ポップ・アートの多彩な表現とその精髓をご覧ください。

「石岡瑛子 I デザイン」関連イベント

TADアートレクチャー

オープニングトーク「石岡瑛子のIをめぐって—再発見したいグラフィックのカー—」

2025年4月19日(土) 14:00～15:30

河尻亨一氏(編集者・執筆者／本展監修者)、永井裕明氏(アートディレクター／本展監修者)

企画展「石岡瑛子 I デザイン」の関連イベントとして、監修のTeam EIKO(石岡怜子氏、河尻亨一氏、永井裕明氏[N.G.inc.])から河尻氏、永井氏をお招きし、オープニングトークを開催しました。河尻氏からは作

品の時代背景などを踏まえたお話を、永井氏からは技術的観点を含むデザイナーならではの視点で石岡瑛子やその作品の持つエネルギーについて語っていただきました。

上映会「白雪姫と鏡の女王」

2025年5月24日(土) 14:00～(106分)

石岡瑛子が衣装デザインを手がけた「白雪姫と鏡の女王」(2012年、ターセム・シン監督)を上映しました。アカデミー賞衣装デザイン部門にノミネートされた本作は、石岡の遺作となった作品です。ここでは、衣装は、登場人物の外見を美しく彩るだけでなく、その内面を映し出す鏡のような役割も果たしています。引っ込み

思案な白雪姫が自立した女性へと成長していく過程を視覚的にも示すように、衣装が花柄の可憐なドレスからクールな戦闘服、そして終盤の青とオレンジの大人びたドレスへと変化していきます。お伽話らしく華麗でちょっと不思議な衣装の数々を楽しみながら、石岡の独創的な表現の魅力を感じていただけたと思います。



いろいろやっ展 みる+つくる+発表する アトリエ・ドキュメント2025 2025年6月28日(土)ー8月19日(火)

富山県美術館では、美術作品の鑑賞だけでなく、アトリエを中心とした、みる・つくる・学ぶといった双方向的な美術体験活動を年間を通して提供しています。本展では、2024年4月から2025年3月までの間、普及活動に参加されたみなさんの作品や各種プログラムの実践を報告パネルなどで紹介します。

開催概要

開館時間 9:30~18:00(入館は17:30まで)
休館日 毎週水曜日(8月13日は除く)、
祝日の翌日(8月12日(火)は除く)、7月22日(火)
会場 富山県美術館 1階 TADギャラリー
主催 富山県美術館
観覧料 無料



予告



企画展「ポップ・アート 時代を変えた4人」関連イベント TADワークショップ 「なぞって、くみあわせる? わたしだけのカラフルポップ・アート」

講師: 平野暉(グラフィックデザイナー)
2025年9月15日(月・祝)
[子ども向け] 10:30~12:30(約90分)
定員: 親子6組12名 対象: 小学生とその保護者
[大人向け] 14:00~15:30(約90分) 定員: 12名
場所: 富山県美術館 3階 アトリエ
申込期間: 2025年8月16日(土)~8月28日(木)
当選通知: 2025年8月31日(日) 当選者のみメールで通知
参加無料



申し込みフォーム

オープンラボ

「うつして つくる ポップ・アートステッカー」

企画: 平野暉(グラフィックデザイナー)
日時: 8月28日(木)~10月28日(火) 10:00~12:00/14:00~16:00(時間内随時受付)
場所: 富山県美術館 3階 アトリエ
対象: こども~大人まで 参加無料



舟越桂《澄みわたる距離》(1990年)

楠・着色、大理石 90×24.4×53.3cm



舟越桂さんが亡くなられたのが、2024年3月29日。もう1年が経ってしまった。富山県美術館は彼の作品《澄みわたる距離》を所蔵しているが、今回は作品入手の経緯を書き残すことで、在りし日の舟越さんを偲びたいと思う。

富山県立近代美術館のオープン記念展「富山国際現代美術展」(1981年)は、その後も3年毎に開催する、いわゆるトリエンナーレ形式で継続した。新進気鋭の具象彫刻家、舟越桂さんが同展に招待されたのが第4回展(1990年)。39歳の時である。

出品作品は次の4点。《積んである読みかけの本のように》(1983年)、《冬の本》(1988年)、《午後にはガンター・グローヴにいる》(1988年)、《澄みわたる距離》(1990年)。

その年度の購入作品候補を絞り込む際に、他の作品を圧倒したのが舟越さんの《冬の本》であった。遠くに視線を投げかけている少女のような、少年のような木彫の半身像。視線を捉えようと瞳に目をやると、スッとかわされたような奇妙な感覚に襲われる。作品購入担当の僕もすっかり魅了されてしまった。

さあ《冬の本》の購入の交渉だ。電話であったか、直談判だったか、すっかり記憶にないが、どうしたわけか舟越さんの言葉は鮮明に覚えている。「あの作品を評価してくれて嬉しいよ。でもね、あの作品は手放せない。

ずっと身近に置いておきたいんだ。そう決めている作品でね。あれは売らない。」何とか翻意を促そうと粘ったはずだが、舟越さんの思いを覆すことはできなかった。落胆した。が、妙に納得もした。会心の作であり、記念作なのだろう。そこで選び直したのが、全体の雰囲気似ている《澄みわたる距離》である。

世田谷区用賀の舟越さんのアトリエに作品を受け取りに行った時、《澄みわたる距離》をぼんやり眺めながら思った。「半身像だから台座が必要だが、どうしようか？美術館のクロス貼りの台座ではしっくりこない。」迷いを舟越さんにぶつけてみた。アトリエ内を見回して、舟越さんがやおら指差した向こうに木製の机があった。「あれなんか、どうかな？手近にあった木で作った作業机なんだけど。」清潔感漂うホホワイト基調の作品に、無骨で薄汚れた感のある台座。間違いなく作品を引き立たせてくれる。が、台座自体も存在感がある。「いいですね！でも、使っていらっしゃるのでは？」「いいよ、かまわないから。」との返事であった。

ここに綴ったのは舟越桂さん39歳、杉野32歳の時のささやかなエピソードである。あれから35年。今も、舟越さんの作業机の上に《澄みわたる距離》がある。

2025年4月3日記

富山県美術館アドバイザー 杉野秀樹

富山県美術館 (TAD)

〒930-0808 富山県富山市木場町3-20 (富岩運河環水公園内) Tel.076-431-2711 Fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>